

アルバトロス（仮）

CAST

渡辺光（わたなべひかる） 元演劇サークルバービーの一員。陽輔と同期。今公演の作・演出。長年温めてきた作品を披露する。

別所春奈（べっしよはるな） 亮の彼女。亮に疑念。今公演では敵の幹部を務める。

吉野亮（よしのりょう） 今公演の重役を演じる。イケメン俳優として人気。その人気を買われて光がスカウト。女性トラブルあり。

野崎早紀（のさきさき） 亮の浮気相手。ヒロイン役。

桐山大悟（きりやまだいご） 元演劇サークルバービーの一員。バービーを卒業してから初めて一線のプロの役者として活躍した。しかし、それも一瞬の灯であり、現在は小さな仕事しかしていない。

松本陽輔（まつもとようすけ） 元演劇サークルバービーの一員。大悟に憧れてバービーに入部。バービーを卒業してからは、プロとして一線で活躍している。

戸澤広大（とざわこうだい） 一般のお客さん。開演前にトイレに入り、公演が始まってしまったので席に戻れずにいた。

和木昇（わきのぼる） ベテラン役者。

木島孝太郎（きじまこうたろう） 今公演の音響を務める。

前田博一（まえだひろかず） 亮のマネージャー。

亮と早紀が走りこんでくる。早紀、転倒する。

亮 ローザ。大丈夫？

早紀 大丈夫。ただ転んだだけ。アーク、私はもう大丈夫。あなたは逃げて。

亮 何言ってるんだよ。最後まで一緒に。

早紀 これは私の役目。私の使命なの。あなたをこれ以上巻き込むわけにはいかない。

亮 もう巻き込まれてるんだ。ここで降りようが、最後まで行こうが変わらないさ。

早紀 でも……。

亮 ローザ。二人でボートに乗ったとき、片方が急に降りたら危ないだろう？ ボー

トが岸に着くまで降りることはできないのさ。

早紀 アーク……。ボートだなんて失礼ね。大型客船とか言いなさいよ。

敵が亮と早紀を囲む。

亮 余計なおしゃべりはここまでだ。ローザ。走るぞ。

激しい立ち廻り。早紀は基本的に逃げ、亮は適度に戦う。大悟割って入る。

大悟 まだこんなところにいたのか。

亮 ラスター。

大悟 さっさと行け。世界を救えるかはお前たち次第なんだ。

激しい立ち廻り、はける早紀と亮。敵をばっさばっさ斬っていく大悟。陽輔、大悟に攻撃、打ち合い離れる二人。ゆっくりとやってくる和木。

陽輔 グルルル。ラスター、貴様を殺す。

大悟 相変わらず、獣のような男だな。

和木 なぜ我々の邪魔をするラスター。私の言うとおりにしておけば、この世界に平

和が訪れるというのに。それこそ、お前が望んでいたものだ。違うか？

大悟 貴様に支配されることがか？ そんなものは平和ではない。

和木 世界を一つにするには、そうする他ないのだラスター。

大悟 一つの考えに固執されている者に、この世を統べることなどできるか。

和木 悪魔で私に剣を向けるか。お前の母親はどう思うだろうな。

大悟 黙れ！ 悪の芽は即摘み取らなければならない。光の戦士ラスター参る！

激しい立ち廻り。途中でスローモーションに入る。ストロボとかできるといいね。 3

人はける。亮出てくる。その後、次々に役者が出てくる。

亮 1894年、日清戦争。

早紀 1904年、日露戦争。

春奈 1914年、第一次世界大戦。

戸澤 1937年、日中戦争。

陽輔 1939年、第二次世界大戦。

木島 1954年、ベトナム戦争。

和木 1991年、湾岸戦争。

大悟 歴史を振り返れば、その半分は戦争でうめつくされている。そう、人間は、生まれてきてから常に争いを続けてきた。そして、歴史は繰り返す。

亮 2123年、第三次世界大戦勃発。この争いがもたらしたのは、破壊、死。

春奈 多くの血が流れ、世界が荒廃しても、まだ人は争うことをやめなかった。

早紀 無数にあった国々は、その数を徐々に減らし、大きな国と少数の小さな国を残すのみとなった。

和木 ガラハド帝国は諸国に自分の国の配下になるよう言及。傘下に下らなければ、武力をもつてその国を滅ぼすと宣言。

陽輔 諸国は次々に滅ぼされ、この大地にはガラハド帝国とそれに刃を向けるレジスタンスのみとなった。

大悟 時は2372年。人々は未だに争いをやめない。

亮を中央に。他は立ち廻りをしながらはける。以後、アニメのオープニング的なことをやる。光のカットの声。

光 はい、OKです。皆さんお疲れ様でした。いよいよ、1時間後が本番です。泣いても笑ってもこれが最後ですから、今日は悔いの残らないようにしましょう。以上、解散にします。

ゾロゾロと解散する役者・スタッフ。前田が拍手をしながら入ってくる。

前田 いや、すばらしい。

光 前田さん。

前田 今のオープニングですよね。すごい迫力じゃないですか。続きがみたいって気になりますよ。

光 ありがとうございます。

前田 さすがは渡辺さんの演出ですね。小演劇界で止まっているのが不思議ですよ。

光 いえ、私の力ではありません。役者とスタッフが素晴らしいんですよ。

前田 これ、クッキー焼いてきたんです。皆さんに差し入れ。

光 前田さん、クッキー焼くんですか。意外だなあ。

前田 お菓子作るの好きなんですよ。どうですか？　うちの亮は。

光 吉野さんですか。いい演技してますよ。アークをしっかり演じてくれています。人生的に未熟なアークを不快感なく、むしろ客に好感を持たせられるような演技ができるのは吉野さんくらいだと思いますよ。

前田 本当ですか？　亮は舞台が初めてなので、上手くできるか心配だったんですよ。映像の演技と舞台の演技って違うじゃないですか。でも、渡辺さんのお言葉を聞いて安心しました。まあ、もし亮がへましても渡辺さんの演出があるから大丈夫ですね。

光 前田さん。よしてくださいよ。

前田 でも残念だなあ、この舞台も1ステージ限りなんて。

光 仕方ありませんよ。それが大会のルールですから。

前田 いや、でも普通の演劇祭って何ステージかやるじゃないですか？　いくらなんでも1ステージだなんて。聞いたことないですよ。

光 舞台って、映像と違って保存できないじゃないですか。各ステージごとにクオリティにバラツキが生まれる。でも、すべてのステージをすべて同じクオリティでしあげてこそ、演劇人である。1回の公演に全力を注ぎこむように、1ステージだけにしたらいいですよ。

前田 へえ。気持ちは分からないでもないけど、なんだかなあ。

光 でも感謝してるんですよ。この大会に呼ばれたということは認められていたってことだし、何より吉野さんを含め最高の役者陣で送ることができるんですから。このアルバトロスという作品は、皆さんあつてこそその劇です。

大悟と陽輔、アンサンブル入ってくる。

大悟 渡辺、ステージちよつと借りていいか？

光 いいですけど。何するんですか？

大悟 ちよつと、殺陣返そうと思ってさ。

光 もうすぐ本番なんですよ。もう準備に入ってください。

前田 まあまあまあ。いいじゃないですか。

光 良くないですよ。もうすぐ開場するときだって言うのに。

前田 でも、この確認ができなかったせいで失敗するのもいやでしょ？

光 前田さん、ただ見たいだけですね。

前田 まあ、稽古もあまり見れてませんからね。その気持ちはがないと言うと嘘になり

ますか。

光 ちよつとだけですよ。

大悟 わかつてるよ。よし、陽輔始めるぞ。

陽輔 はい。

大悟 あそこ。ラスターとバルバロスが初めて出会うところの立ち廻りいくぞ。

陽輔 わかりました。おい、みんなスタンバイ。

大悟 よし、じゃあ、いくぞ。よいい、スタート。

敵を斬っていく大悟。

陽輔 なかなかやるな。だが俺はそう簡単にはいかんぞ。貴様を殺し、俺が皇帝の右

腕になるのだ。

大悟 誰だか知らぬが、俺に剣を向ける以上容赦はしない。

陽輔 和が名はガラハド皇帝の一の子分、バルバロス。

大悟 光の戦士ラスター。参る！

立ち廻り。大悟、陽輔を斬りつける。

大悟 おし、こんなもんでいいだろう。みんなお疲れさん。陽輔、あそこの突きだけどさ、ただ出してるだけなんだよ。もっと殺気こめてくれないと、ラスターが立たないよ。

陽輔 あ、すいません。一手一手しつかり殺気をもつてやります。

大悟 だからって、ずっと同じ殺気じゃおもしろくないからな。強弱付けろよ。それとな、

陽輔 はい。

二人退場。

前田 いやあ、すごい。大迫力ですね。

光 やっぱり見ただけだったじゃないですか。

前田 そう言わないでくださいよ。しかし、よくあの桐山大悟が出演OK出しましたね。大きな仕事以外は受けない役者さんだって聞いてましたけど。

光 実は、大学時代の演劇部の先輩なんです。陽輔は同期なんです。

前田 なるほど。だから二人とも出てるんですね。やっぱりこの業界持つものはコネ

光 ですね。それとコレ（金）

光 汚いこと言わないでくださいよ。

春奈やってくる。神妙な面持ち。

光 別所さん。どうかしましたか？

春奈 いえ……別に。

光 そうですか。ならいいんですけど……。

春奈 ……渡辺さん。

光 はい。

春奈 人は信じるべきですよ。

光 え？

春奈 それが大切な人なら、なおさら信じるべきですよ？

光 は、はあ。

春奈 ……そうですね。

春奈、はける。

前田 あれ絶対どうかしましたよね。

光 大丈夫かな。芝居に響かなければいいけど。

亮、やってくる。

前田 おお、亮。ちゃんとやってるか？

亮 なんだ。前田さん来てたの。関係者席に行ってればいいのに。

前田 お前を心配して見に来てやったんだろ。舞台は初めてだから緊張するって言ってたじゃないか。

亮 前田さんが来る方がプレッシャーなんだよ。楽な気持ちでやらせてよ。あ、それ前田さんが焼いたやつ？

光 ええ。そうですよ。

亮 じゃあ、これ楽屋持つてくよ。みんなの分でしょ。ほら、だからさっさと行っ
た行った。

前田 人がせっかく

亮 ちゃんとクッキーは届けるよ。これは毎回楽しみにしてたんだ。

早紀、やってくる。

亮 野崎さん。最後のところ確認したいんだけど。

早紀　ええ、私も確認したかったの。

二人、手を取り合ってはける。

光　あれ、どうしましたよね？

前田　まさかね……。

木島、何かの包みを持って走っていく。

光　木島君。どうしたの？　そんなにたくさん抱えて。

木島　ちよつと、買出し頼まれちゃって。

光　え？　誰に？

木島　和木さんです。

光　もう、和木さんも困るな。そういうのは制作側に言っ
て言っ
てあるのに。
ごめんね。

木島　大丈夫ですよ。準備は大方終わってますし、僕も外の空
気吸いたかったんで
いい口実ができました。

光　和木さんには言っておくから。

木島、はける。

光　和木さんには困ったものだな。

前田　ああ、そうだ。和木昇も出てるんだった。誰もが知
ってるベテランの大御所、
和木昇。今が旬の松本陽輔。今はあまり見なくなっちゃ
ったけど、かつては大
ブレイクしていた桐山大悟。女性陣は駆け出しのフレ
ッシュな女の子たち。本
当豪華だね。

光　和木さんは素晴らしい役者なんですけど、ちよつと
常識がない時が多々あり
ま
して。音響さん
に買出し頼んだりとか。
さっきのが音響さん
ですか？

光　ええ。音響兼サンプラーさんです。

前田　サンプラー？

光　効果音出す人のことです。殺陣とかの。

前田　あ、あれって音響さんがや
ってるんじゃないんだ。

光　BGMとSEは結構別々にやりますよ。特に殺陣なんかは
かじってる人がや
らないと、難しいですから。

木島、やってくる。

木島 渡してきましたよ。

光 ありがとね。

前田 初めまして。吉野亮のマネージャーの前田博一と申します。

木島 あ、どうも。音響の木島孝太郎です。

前田 今回は亮がお世話になっております。殺陣なんて初めてなんで、木島さんのサ
ンプリングがないと見れたもんじゃなくて。

木島 吉野さんは今回立ち廻りありませんけどね。

前田 あれ？ そうなんですか？

光 前田さん、台本読んでないんですか？

前田 いえ、読んでますよ。やだなあ、冗談ですよ。

木島 もうそろそろ開場するんで、僕行きますね。

光 え？ もうそんな時間？ 前田さん、そろそろ席に。

前田、木島。はける。入れ替わりに和木が来る。

光 和木さん。どうしたんですか？ 早く準備をしてください。

和木 あのゝさっきのジマジマにお願いしたいことがあってね。

光 ジマジマ？

和木 木島くんだっけ？ いたでしよ。

光 木島君は音響で、パシリなんてやらせちゃだめなんですよ。

和木 別にいいだろ。暇そうだったし。

光 よくないですよ。そのお話は置いておくとして、何が欲しいんですか？

和木 いや、彼がね。コーヒー牛乳を買うの忘れてたんだよ。やっぱり、引き受けた
仕事なんだから、きちんとやるべきだろ。コーヒー牛乳はね。大事なんだよ。

あれをやっぱり買わせないと

光 スタンバイしてください！

和木、ぶつぶつ言いながら退場。陽輔が来る。

陽輔 いやいよだな。

光 うん。なんかあつという間だったな。

陽輔 一回きりだなんてな。

光 成功するかな。

陽輔 桐山先輩がいるんだ。お前の演出も完ぺき。成功しない理由がないよ。

光　　そうか。

陽輔　どっかすごい人の目にとまって、この劇団サイコロが、今回の演劇祭のためだ

けの劇団じゃなくて、今後も活動していけるようになるよ。

光　　だいたいな。

陽輔　光。絶対成功させような。

暗転。舞台が始まる。オープニングを無事部終えた、舞台裏。

前田　滑り出しは好調ですね。むしろ、一回きりだからか、いつにもまして迫力があ
りますよ。

光　　前田さん。客席で見ないんですか？

前田　良く考えたら、客席からはいつでも見れるけど、スタッフがいるところから見

れるなんてそうそうないと思って、こつちに来ちゃった。

光　　こつち側から見るんですか？　普通の席より見にくいですよ。

前田　次はどんなシーンなんです？

光　　アークとヒロイン、ローザが会おうシーンですね。

前田　アークということは、早速うちの亮が出てくるわけですか。

舞台上を区切って、音響ブース？と、舞台にする。歩いている亮に走ってきた早紀が
ぶつかる。

早紀　ごめんなさい。急いでいたので。

亮　　いや、こつちもよそ見してたから。

早紀　……あれ？　ない。ない！

亮　　どうかした？

早紀　ペンダントがないの。さっきぶつかったときに落としたのかな。

亮　　大切なものの？

早紀　すぐく。

亮も探す。そしてペンダントを見つける。お礼を言う早紀。そこに、ガラハド帝国の
兵士たちが亮たちを取り囲む。光達に戻す。

前田　あれ？　いきなりピンチな感じだよ？

光　　彼らはペンダントを追ってきたガラハド帝国の兵士たちです。ペンダントをよ
こせと迫るんですが、アークはローザをかばって渡さない。怒った兵士たちに
襲われます。

前田 それを華麗なるアクションで敵をドカーンと
光 倒したりはしません。言っただでしょ？ 正義感は強いけれど、それに実力が伴
わないのが、アークなんです。逃げまくるんですよ。そこに、ラスターがやつ
てくる。

兵士が亮たちに襲いかかる。初めは避けている亮。

亮 ふっ。甘いな。

亮、兵士たちをやっつけていく。

亮 このアーク様が貴様らザコにやられるとでも思ったか？

前田 なんだ。あるじゃないですかアクション。
光 違う。こんなシーンないぞ。

大悟乱入してくる。

大悟 アーク。今助ける！ ってあれ？

亮 遅かったな、ラスター。敵は俺が倒しちやったぜ。

早紀 か、彼は一体？

亮 彼はラスター。ピンチになると助けに来てくれるヒーローってところかな。俺
の実力を信じられなくて、助けに来るけど、いつも俺が先にみんなを倒しちや
うんだ。

前田 なんか、聞いてたのとキャラクターが違う。さわやかな少年じゃなくて、下町
のガキ大将みたいになってる。

光 吉野さん、なんで急に変えたりしたんだ。

はけてきた亮と大悟

大悟 おい、どういうことだよ。あそこはラスターがアークたちを助けるシーンだろ。
あれじゃ、ラスターはいつもおまぬけみたいじゃねえか。

亮 ちよっと地味だったんですね。衣装もこんなだし。主役は桐山さん演じるラ
スターですけど、それをアークがもっと引き立たせることができるはずなんで
すよ。だからちよっとキャラクターを変えてみました。

大悟 馬鹿野郎。お前の意思で脚本を変えてどうすんだよ。いきなり変えられたら対処できねえだろうが。

亮 まあまあ。物語の進行上問題はありますから、いいじゃないですか。僕のファンが、僕が地味だからって怒りだすよりはましでしょ？

亮 去っていく。

大悟 ああ、そうかいそうかい。イケメン俳優は何やっても許されるってことか？
じゃあ、俺もやってやる。

木島が通る。

木島 和木さんめちゃくちゃだよ。コーヒー牛乳買えとかさー。あ、桐山さん。なんですか？ あのアークの立ち廻り。びつくりしましたよ。簡単な手だったんで、何とか合えましたけど。変更があるならあると

大悟 木島。ラスターとバルバロスの立ち廻りな、前決めたやつに変更だ。そう、陽輔達にも言っておけ。(去る大悟)

木島 え？ ちょっと！ 立ち廻りがあるってことは、僕も仕事があるんですよ！ あゝもう。どこだって言ったつけ。ラスターとバルバロスって、もうすぐじゃないか！ 今からスタンバイしないと間に合わないよ！

大悟、亮、早紀。歩いて来る。

亮 ローザ。そのペンダントってなんなの？ 何でやつらが狙っているの？

早紀 わからない。

亮 悪いことは言わない。そのペンダントは捨てたほうがいいよ。いつやつらに襲われるかわからない。

早紀 お母さんの形見なの。

亮 え？

早紀 お母さんが死ぬ間際にくれたペンダントなの。だから、どうしても手放せなくて。

亮 そうか。お母さんとの思い出が詰まっているんだね。

大悟 ガラハドの兵士のあの慌てっぷり。兵器か何か？ 君のお母さんは一体。

早紀 信じてもらえるかわかりませんが、私のお母さんは大巫女でした。

大悟 大巫女。

亮 大巫女？

大悟 知らないのか？ この世の自然を統べる世界樹。その世界樹の声を聞き、世話をするのが大巫女だ。大きな樹木から、そこに生えている雑草まで、すべての自然が生きてるのは大巫女のおかげだ。まあ、今ではその自然を見つける方が難しいが。

亮 じゃあ、ローザはそんなすごい人の娘なの？

場を区切って、光と前田。

前田 どうやら、亮も元のキャラクターに戻したようですね。

光 急にキャラ変わったたりでおかしいですけど、まあいいとしましょう。

前田 次はどんなシーンなんです？

光 前田さん。あなた本当に台本読んだんですか？

前田 確認ですよ、確認。

光 ヒロインローザの人物像が明らかになります。しかし、ガラハドの兵士がペンダントを狙う謎は残ったまま、その時、ラスターが敵の気配を感じます。

大悟 静かに。

亮 なんだよ、ラスター急に。ビククリするじゃないか。

大悟 隠れているのはわかってる。出て来い。（抜刀）

前田 おっ、歴戦の戦士だからこそわかるってわけですね。かっこいいじゃないですか。

光 ここで、ライバルであるバルバロスと初めて出会います。ここでは、バルバロスがラスターに退けられてしまいますが。

陽輔、アンサンブル。大悟が向いている方と反対側から出てくる。

陽輔 はっはっは。ペンダントを奪い損ねたと聞いて腹が煮えたぎっていたが、貴様がいたのでは仕方がないか。光の戦士、ラスター。

大悟 あ、そっちな。

前田 渡辺さん、このシーンギャグですか？

光 違いますよ。

亮 お前たちはガラハド帝国の。なぜこのペンダントを狙うんだ。

陽輔 お前たちは知らなくていいことだ。その女ごとこちらに渡してもらおうか。

亮 お前たちなんかに渡すものか。
陽輔 威勢がいいな。女の前では小童も一人前の戦士か。しかし、こちらまで遊んでい
る暇はないのだな。やれ。

手下たちが襲いかかろうとする。本来ならラスターがバサバサ斬って終わりなのだが、
亮がまた自分で戦おうとするので、それを止める大悟。大悟が行こうとするとそれを
止める亮。の繰り返し。手下たちは襲いかかろうとして行けない。

陽輔 ちょっと、そこでケンカしないで。

大悟に競り勝った亮が、手下を倒す。

亮 へっ。どんなもんだい。

光 下町の番長再来。

前田 ああ、また亮のやつ勝手に。

陽輔 さすがは、ラスター……じゃなくて、小童。さっきの威勢は見せかけではない
ようだ。その力、試させてもらおうか。

亮 へっ。いつでもかかってきやがれてんだ。べらぼうめ。

光 何、あの中途半端なキャラ。

大悟 待て、貴様の相手はこの俺だ。

亮 ラスターの兄貴は引つ込んでなよ。こいつも俺たちだけで十分でさあ。

早紀 アーク。逃げるわよ。ラスター。後は任せたわ！

早紀、亮を引きずっていく。

前田 なんとか、この場は治まりましたね。すいません、うちの亮が。

光 まあ、お客さんにも受けているようですし、結果オーライですよ。

陽輔 やはりお前が来るかラスター。俺はそう簡単にはいかんぞ。貴様を殺し、俺が
皇帝の右腕になるのだ。

大悟 誰だか知らぬが、俺に剣を向ける以上容赦はしない。

陽輔 和が名はガラハド皇帝の一の子分、バルバロス。

大悟 光の戦士ラスター。参る！

立ち廻り。しかし、陽輔には殺陣が変更されたことが通じておらず、殺陣が噛み合わない。鏝ぜりあい。

大悟 おい、何やってんだよ。ちゃんと変更したとおりにやれ。

陽輔 え？ 変更って何のことですか？

大悟 少しはやるようだが、これで終わりだ。

陽輔 グルルル。こしやくな！

陽輔の剣が大悟を貫く。

大悟 あ、あれ？

それでも、もがく大悟だが、噛み合わないのでさらに斬られる。

大悟 くそつ。無念。この光の戦士ラスター死すとも、自由は死ぜず！

ラスターはける。沈黙が流れる舞台上。

陽輔 ……フハハ……。ついに、あの光の戦士ラスターを倒したぞ！

前田 ちょっと、ラスター死んじやいましたよ。いきなり主人公死ぬんですね。斬新だなあ。

光 そんなわけないでしょ。何でこんなことに。ちょっと失礼します。

前田 あ、渡辺さん。

シーンは変わり、アークとローザが二人きりで話している。

早紀 ラスターさん、一人で大丈夫かしら？

亮 自分が任せたんじやないか。

早紀 だけど。

亮 大丈夫。ラスターの兄貴なら負けやしないよ。負けたところなんて見たことないよ。ただの一度もね。

早紀 ならいいけど。

亮 ローザ。君が良ければなんだけど、僕らのリーダーに会ってみたい？

早紀

リーダー？

亮

そう、僕たちレジスタンスのリーダーさ。ガラハド帝国のやつらから身を隠すには、レジスタンスの本拠地が一番だと思うんだ。

大悟

おおおおおおおい。どういふことだよあれは。

陽輔

どういふことって、先輩こそ何やってるんですか。僕ら出てきたとき違う方向
いてるし。挙句の果てには、わけわかんない立ち廻りするし。

大悟

ちゃんとやっておいただろ！

陽輔

何がですか？

大悟

手を変えたことだよ。前に戻したんだ。木島から聞いてるだろ。

陽輔

え？ 聞いてませんよ。

木島と光、前田が来る。

木島

あ、すいません。自分、松本さんに伝えられなかったんです。

大悟

なにい！！ 木島、てめえ！

陽輔

止めてくださいよ先輩。

木島

だって、立ち廻りがあるってことは、僕も仕事があるじゃないですか。

陽輔

そうですよ。立ち廻りが変わるなんて大事なことで、音響さんに伝言頼んじゃダメですよ。

光

それ以前に、本番中に脚本を変えないでください！ 何で変えてるんですか！

大悟

そりゃ、亮のやつが勝手な変更するからよ。俺も立ち廻り変えるくらいならいいかなって。

光

よくないですよ！ 結果的に主人公が開始15分で死んじやったじゃないですか？ どうするんですか！？

前田

あ、確かに。

木島

主人公死んじやってますね。

大悟

うそお？ 深手負っただけじゃなくて？

光

先輩、自分でラストー死すとも自由は死せずとか言ってたじゃないですか。なんでですかあれ。板垣退助じゃないんだから。

大悟

ほんとだぁーどうすんだよぉー。死んでるじゃーん！

光

だから問題なんですよ。

前田

次はどんなシーンなんです。

光

バルバロスがガラハド皇帝に失敗を報告するシーンです。時間的にももうそろそろですね。

陽輔

そうか。俺の番だ。

木島 あ、僕も音響が。

光 和木さんはもうスタンバってるから連絡とれない。だから、陽輔。お前が何とかうまくフォローしろよ。

陽輔 え？ フォローって。

光 さあ、時間だ。

ガラハド皇帝にバルバロスが報告するシーン。いかにも悪の大ボスという感じの音楽が流れている。和木の隣に春奈。バルバロス登場。

陽輔 只今戻りました。

和木 ご苦労だったな。バルバロス。ペンダントはどこだ？

陽輔 申し訳ございません。邪魔が入りまして、娘ともども逃がしてしまい……

和木 ほう。まだ手に入られていないと申すか。

陽輔 申し訳ございません。

春奈 あら？ あの獣のようなバルちゃんペンダント一つ持ってこれないなんて意外ね。よつぽど、その邪魔が強かったか。あるいは、もともと見せかけの牙

だったのかしら？

ヴァレンシア、貴様ああああ。

陽輔 光の戦士ラスター。奴が現れたのだろう。バルバロスをからかってやるなサターン。奴が現れたのでは一筋縄でいくはずがない。

陽輔 そのとおりなのです、皇帝様。ラスター、あやつの実力噂以上でして、やつと剣を交えている間に逃げられたのです。

和木 排除したんだろうな？

陽輔 は？

和木 ペンダントと大巫女の娘を連れてこれなかったことはわかった。しかし、それだけラスターに気を取られていたのだ。奴の息の根は止めたのだろうか？

陽輔 それが……。

和木 この私を怒らせてくれるなよバルバロス。

陽輔 倒しました。

和木 何？ 貴様、ペンダントだけ……え？（音楽止まる） 倒せたの？

陽輔 ええ。喉をグサリと。

光 おおおおい！ ラスター殺したこと肯定してどうすんだよ！ つか、音響！

前田 何いいタイミングでBGM止めてんだよ。完全にギャグじゃねえか！

光 渡辺さん、落ち着いて。

光 落ち着いてなんかいられますか。もう修復できないじゃないですか。

和木 ふざけるな！ バルバロス。貴様、ペンダントを奪えなかったばかりか、ラス

ターを倒したなどと嘘をつきおつて。

陽輔 嘘ではありません。確かに我が剣が奴の体を貫いたのです。そして、自由は死
せずと叫んで死んだのです。

和木 そんな死に方あるか。貴様なんぞがラスターを倒せるはずないのだ。

陽輔 それはあんまりのお言葉。

和木 良いかバルバロス。今回だけは目に見てやる。しかし、次しくじればどうな
るものかわかったものではないぞ。ペンダントと、奴の息の根を止める。

陽輔 はっ！（はける）

春奈 獣も皇帝の前では子猫ね。

和木 何をしているヴァレンシア。貴様もだ。さっさと行け！

春奈 はっ！

前田 お！ 何かむりやり感がありますが、いい方向に転びましたよ。

光 さすが和木さんだ。なんとかラスターの死をやむやにできそうだ。

陽輔 やってくる。木島遅れて。

陽輔 ふう。ドキドキしたよ。

光 陽輔お前な！ フォローしろって言っただろ。ラスター死んだこと肯定したら
だめだろ。

陽輔 そんなこと言われたってさあ、俺がアドリブ苦手なの知ってるだろ？

光 だからって、あれはないぞ、あれは。

木島 陽輔さんお願いしますよ。

光 木島君も何でBGMとめてんの？

木島 止めるべきかなと思ひまして。

光 このやろう！

和木 和木が入ってくる。

和木 ちよっと、ちよっと。駄目だよ急にお話変えたりしたら。危うくラスター死ん
だことになっちゃうところだったよ。

前田 そうか。和木さんは自分の出番以外は楽屋に引っ込んでるから、知らないんだ。

和木 実は、ちよっとした手違いがありまして、ラスター死んじゃったんですよ。

和木 ちよっとした手違いって、君は何を言ってるの？

前田 いや、和木さんがそれをうまいことストップしてくれたんですけど。
和木 何が何だかさっぱり。さっぱりいんだけどね。

亮と春奈がやってくる。

春奈 ねえ亮ちゃん。

亮 その呼び方やめろって言ったら。みんなの見てる前で。

春奈 最近冷たいよね。

亮 おい。

春奈 あんまり会ってくれないし、電話も出してくれないし。

亮 今本番中なんだぞ。後にしろって。

二人はける

和木 なんかもめてたねえ。気になるねえ。

光 今はそのことより、舞台を円滑に進めましょう。先輩、和木さんのおかげでなんとラスターの死をやむやにできました。

和木 まあね。

光 これはチャンスです。致命傷を負ったけども、かろうじて生きていたことにしましょう。

大悟 いいのかよ、それで。

光 本来のラスターの人物像とは大きくかけ離れますが、この際仕方ありません。無敵の強さを誇るラスターではなく、困難を乗り越え強くなっていくラスターにしましょう。

前田 こうなってしまった以上は仕方ありませんね。一回ラスター死んじやってるんですから。

亮と早紀。アークとローザ。レジスタンスの本拠地に向かう途中。

亮 もう少しで着くよ。大丈夫？ 疲れてない？

早紀 ちよつとね。でも大丈夫。こう見えてタフだから。

亮 へえ。そうは見えないけどなあ。

早紀 運動とか結構得意なんだから。ラスターさんが出てこなかったら、私が倒すところでしたよ。

亮 大きく出たな。

早紀 でも、喉かわいちゃったな。ちよつと、休憩。(泉の水を飲もうとする)

亮 あ、それに触っちゃだめ。
早紀 え？　なんで？

亮 これはレジスタンスが作った人工的な湧水で、毒が含まれてるんだ。
早紀 本当に？　触っちゃった。どうしよう。

亮 体内に入らなければ大丈夫だから、その手を口の中に入れたりしないでね。もう少し行ったら本当の泉があるから、そこで洗い流そう。

ラスター登場。ものすごく弱っている。

大悟 ゼーはーゼーはー。バルバロスとの死闘の末、いつもなら全く生まれるはずなのに、たまたまできた隙を突かれて瀕死の状態になってしまった。死んだと思っただ奴が多いだろうけど、光の戦士はこんなことでは死なないのだ。

和木 ザ・説明口調だね。
前田 もつとうまくできないのかなあ。

亮 ラスター。大丈夫かい？

早紀 ラスターさん、やっぱり強い相手だったんですね。今傷の手当を。
亮 何をするんだローザ。

早紀 私に任せて。大巫女の血を引く者の力よ。わたしの歌声には特別な力があるの。癒しの歌で、ラスターさんの傷を癒すわ。

光 うまい！

和木 これなら上手くまとまりそうだねえ。

前田 どういうことですか？

光 この作品のタイトルであるアルバトロスというのは、歌のタイトルなんですよ。ラストは止まらなくなった争いをローザの歌で止めて、今後のことをこれから考えていこうって感じで終わるんです。

和木 本来ならローザは自分の能力に気が付いていないんだけどね。そこは大きな問題じゃない。後でどうにでもなるんだよ。

ローザ、歌っている最中に、ラスターに触れる。ラスター、急に苦しみ出し、息絶える。

亮 あれ？　ラスター？　ラスター。ラスター！

早紀 どうして？　私の歌声には力がなくなってしまったの？

亮 あ、ローザ。その手はさつき毒の水を触ったんだったよね？
早紀 あ、そうだった。

5人 ああああああああ！

前田 上手くいったのに！ 毒でやられるとは！

光 そんなの桐山先輩のさじ加減じゃないですか。何で毒に反応してんだよもう。
和木 彼もすぐれた役者だからね。毒に触れていたという事実を無視できなかったんだろうね。

光 そんなの放っておいたって、お客さんにばれないのに。そんなところだけ細かいんだから。

早紀 なんてこと、私のせいでラスターさんが……。

亮 自分を責めちゃいけないよローザ。これは君のせいじゃない。ラスターはもう助からないくらい瀕死だったんだ。これが彼の運命だったんだよ。

前田 あー後戻りできなくなってますよ。
光 何とかうやむやにして。

早紀 そうだ、もう一度癒しの歌を歌えば、蘇るかもしれない。

5人 その調子！

亮 いや、もう無駄だよローザ。彼はもう生きていない。

早紀 え？ でも、試してみる価値は……

亮 これっぽっちもないよ。彼は死んだんだ。これ以上は死者の冒流になりかねない。悲しいけれどバイバイしよう。

光 吉野おおお！

陽輔 知り合い死んだのに、すごいたんばくだよ。アーク。

亮 さあ、涙を拭いて。涙を見せちゃいけない。ラスターは君が無事でいてくれることを願っていたんだから。さあ、おいで。みんなの元に行こうじゃないか。

アーク、ラスターの剣を掴み、天高く突き上げる。

亮 ラスター。今までありがとう。いつまでもラスターに頼っていきちゃいけない。

僕は強くなる。ラスターの遺志を継いで、必ずレジスタンスをガラハド帝国の脅威から守ってみせる。ラスターをも超えて見せるよ。

アークとローザ、ラスターはける。

和木

完全に死んだことになっちゃったね。これは簡単に復活できそうにないよ。

光

お宅の役者はどうなってんだよ。なんで自分が目立つように話を持っていくんだ！

前田

ほら、癒しの歌を更に上回る歌とかで、黄泉の国から引つ張り戻せばいいんじゃない？

光

無茶言わないでくださいよ。そんな魔法みたいなものが何回も出てきたら、リアリティにかけるでしょ。

大悟、帰ってくる。

大悟

ねー俺完全に死んじやったけど。これどうすんの？

陽輔

先輩が毒に反応しなければ大丈夫だったのに。

大悟

そんなこと言ったって、毒触った手で傷口に触れてきたんだぞ。毒まわっちゃうじゃん。

光

お客さんにはばれないから無視すればよかったんですよ。

和木

しかし困ったね。この後はどうするんだい？ ラスターはこのまま亡き者にするかい？

大悟

冗談じゃないですよ。久しぶりの主役だったのに。

戸澤

でも、斬新ですね。主人公が開始早々死ぬって。

陽輔

確かに斬新な感じになってますね。ってあなた誰ですか！？

戸澤

あ、どうも初めまして。戸澤広大と申します。

光

えっと、すいません。スタッフの方ですか？

戸澤

あ、違います。一般客です。

他

一般客！？

陽輔

一般客がなんで舞台裏に？

戸澤

開演前にトイレに行ったんですけど、トイレから戻るまえに劇が始まっちゃって。客席に戻ることもできず、フラフラしてたら、ここにいました。てへっ。

前田

てへって、お茶目だなあ。とりあえず関係者以外立ち入り禁止だから、出ててください。

戸澤

そんなあ。今更客席になんて戻れませんよ。

前田

でも、関係者以外立ち入り禁止ですから。

光 その人のことはとりあえず置いておきましょう。
前田 いいんですか？
和木 まあ、確かに今はこの人にかかわってる暇はないよねえ。
光 今後のラスターをどうするか考えましょう。

亮と早紀。

早紀 ねえ、ちよつとどういうこと？

亮 何が？

早紀 なんでラスターを死んだことにしちゃったのよ。

亮 殺したのは早紀だろ。

早紀 フォローの仕方次第でどうとでもなったでしょ。なんでアークがラスターの遺志を継ぐのよ。初めのシーンだつて急に敵倒しちゃうし。

亮 だからさ、それ相応つて言うのがあるじゃん。元もと今回のアークは、俺には合わないんだよ。

早紀 なんで？

亮 なんでつて、弱いし、いつもラスターに頼つてばっかじゃん。そういうかつこわるいのさ、俺の柄じゃない。俺のファンだつてそう思つてるよ。

早紀 アークは弱いけど、折れない心をもってるじゃない。

亮 折れない心ね。そんなもの持つてても、結局美味しいところラスターがもつてつちやうからな。

早紀 役はおいしい美味しくないじゃないの。どんな役でも必要なのよ。与えられた役をしっかりと演じ切るのが役者でしょ？

亮 わかつてるよ。だから途中で降りたりしないで最後までやつてんだろ。お前だつてさ、俺がもつと華やかな役のほうが嬉しいでしょ？

早紀 そりやそうだけどさ……。

亮 じゃあ、問題ないじゃん。ほら、俺たちのシーン始まるぞ。

早紀 あ、待つてよ。

二人はける。光達。

前田 それはないでしょう。

和木 ダメかなあ。

前田 実は死んだのは双子の弟だったつて。そりやないですよ。自分でラスターつて名乗つてんのに。

和木 本当の名前はマスターなんだけどカツゼツ悪くて、ラスターに聞こえてたつて

光　　いう。
それこそカッコ悪いですよ。弟が死んだ意味ないじゃないですか。
木島　　そういえば、今どこのシーンですかね？
みんな　あつ。

舞台に注目する。亮と早紀が演じている。

亮　　くそ。まさかリーダーがあんなこと言うなんて。ごめんよ、ローザ。こんなつもりじゃなかったんだ。
早紀　大丈夫よ。ガラハド帝国が躍起になって狙ってくるものだもの。ペンダントをレジスタンスが欲しがつても不思議じゃないわ。
亮　　君をガラハドのやつらから守るために連れてきたのに、これじゃ本末転倒だよ。

陽輔　やべ！　もうすぐ俺の番じゃん！（去る）
木島　松本さんが出番ってことは、僕もだ！（去る）
前田　今どういうところなんですか？

光　　協力してくれると思ったレジスタンスのリーダーが、ペンダントを預かると言い出したんです。つまり、ローザはガラハド帝国にもレジスタンスにも狙われることになります。二人はそこから逃げてきたんです。このあと、バルバロスと女幹部ヴァレンシアが襲いかかるんです。
前田　なるほど。だから二人が慌てているんですね。木島さんがスタンバイしたということは、またアクションがあるわけですか。

舞台の区切り3つ目。木島と戸澤

木島　あー危ない。間に合った。
戸澤　何するんですか？
木島　決まっているじゃないですか。サンプリングですよ。わ！　あなた何でついてきてるんですか？
戸澤　あそこにも暇ですし、どうせならいろんな人の仕事みたいじゃないですか。
木島　いいや、今はそんなこと言ってる暇ないし。邪魔しないでくださいよ。
戸澤　これで何するんですか？
木島　殺陣の音を出すんです。時代劇とかアクション映画でも、殴ったり斬ったりしたら効果音が出るでしょ？　あれを舞台でもやるんです。この音がないと寂しいんですよ。
戸澤　タイミングよくボタンを押すだけか。これなら僕でもできそうだ。やりましょ

うか？
ふざけないでくださいよ。僕がどれだけ苦勞して覚えたと……ちよつと！ 何
やってるんですか！

戸澤、いつの間にか手にクッキーと飲み物。

戸澤 お腹すいちゃって。出すもの出したからかなあ。すいません、僕だけ食べちゃ
って。

木島 何考えてるんですか！？ 機材の前で！ こぼしたりしたらどうするんです？
大丈夫ですよ。そんなへまはしないんで。

木島 そのクッキーだって前田さんからの差し入れでしょ？ あなたのじゃないんで
すよ。

戸澤 えへへ。おいしいですよ。

木島 もう、出てってくださいよ！

木島の声に驚いて、飲み物を機材にこぼしてしまう。

二人 あっ！

早紀 そんなに自分を責めないで。アークがいろいろ考えてくれたことだけで私は嬉
しいの。さあ、あなたはレジスタンスの人間。私と一緒にいては裏切り者扱い
されてしまうわ。もう、行って。
いや、僕は決めたんだ。君を守るって。必ず君を守り抜いてみせるよ。

ローザの手を握るアーク。恥かしくなって離れる二人。

亮 いや、ほら、それがラスターとの約束だしさ。

早紀 うん、わかってる。

亮 でも、さっき言った言葉は本当だから。

木島 ダメだ。音が出ない。

戸澤 どうでしょう？

和木と前田入ってくる。

和木 どうしたの？ すごい声聞こえたけど。

前田 機材トラブル？

戸澤

スタツフさんが大声出すから。

和木 次音が必要なのはいつなんだい？

木島　もうすぐですよ。バルバロスとヴァレンシアが乗り込んできたら、すぐ立ち廻ります。

陽輔、春奈、亮たちのもとへ。

お前は、バルバロス将軍！

おや、バルバロス。あんたこんなガキに手を焼いたのかい？

陽輔 俺が手を焼いたのはラストだ。

ふう。何とか間に合ったみたいですね。

大悟
ああ、やばいやばい。

先輩、落ち着いて。まだ余裕はあります。

大悟 何言ってんだよ。もうすぐ出番じゃないか。二人のピンチをラストが救うんだろ？ 忘れたのか？

あ、そうだ！ 忘れてた！

木島 直らない。

こうなったら最終手段だね。

3人
最終手段？

和木 君は音響さんだよな？ ジマジマ。

木島
はい。

殺陣の効果音は鳴らさなきゃいけない。だけど、機材は不調。

木島
はい。

和木
口だ。

木島
え？

和木
口でやろう。

ええええええええええええええええ！？
口いいいいいいいいいい！！？

そうするしかないよ。気分はボイスパーカッションでさ。

前田 確かに今はそうするしかないかもしれませんね。

木島 前田さんまで何言ってるんですか？ 正気ですか？ 口で効果音出すなんて。絶対おかしいですよ。だったら無いほうが……。

戸澤 木島君。君は音響なんだろう？ だったら、音響として、何が何でも音を鳴らさなきゃ。

木島 お前が言うか！

大悟 どうすればいい？ 俺はどうやって飛び込めばいいんだ？
光 うーんと……。

亮 お前達にローザは渡さない。ラストーの名にかけても。

春奈 ほう。お前が相手をしてくれるって言うのかい？ おもしろい。やろうか？

大悟 あいつ、俺の代わりに立ち廻りやる気だ。あのやろう、どこまでも。

光 ここは亮さんに任せましょう。

大悟 何言ってるんだ。

光 僕たちにはまだしつかりとしたプランが立っていないんです。無暗に飛び出すよりは、しつかりとつじつまを合わせたほうがいいですよ。
大悟 そうか。

和木 はい、マイク。

木島 本当にやるんですか？ くそおおおおお！

木島の声を合図に立ち廻り開始。アークVSバルバロス、ヴァレンシア、手下。木島は声で効果音を担当。敵を蹴散らすアーク。

和木達 おおおおおお。（拍手）

光 なんか、効果音おかしかったですよね？

大悟 え？ 何が？ 何もおかしくなかったけど？

木島組がやってくる。

和木 いや、すごいよ。ジマジマ。ねえ、聞いたかい？ さっきの。

光 さっきのって？

戸澤 効果音を口でやってたんですよ。木島さんが。

光 だから、違和感があったんだ。

大悟　すごい。あれが口？　まさに効果音そのものだったよ。

光　そんなことは……。

木島　やってやりましたよ。

和木　本当は軽い冗談だったんだけどね、あんなにうまくやるとはね。

木島　え？　冗談？

光　何で口なんかで？

前田　機材に水かけちゃってさ、この人が。

戸澤　てへりんこ。

光　ちよつと、お願いしますよ！　直りそうなんですか？

木島　努力はします。

陽輔　中々やるな。

春奈　小僧のくせにやり手ね。ますます壊したくなっちゃう。

陽輔　ヴァレンシア。俺たちの本来の目的を忘れるなよ。

春奈　ええ。ちゃんと小娘とペンダントは頂いていくわ。

ヴァレンシアの台詞に反応し、ローザ、アークの後ろに隠れる。アークはかばう感じ。
ヴァレンシアからは、抱きついてるように見える。

春奈　ちよつと、そこなにくつついてんのよ！　離れなさいよ！

3人　え？

春奈　くつつく必要ないでしょ！

陽輔　あ……確かにその必要はないな。我々が欲しいのは小娘だけだ。くつついてたら邪魔だ。邪魔だ。

春奈　なによ。最近は私のこと触れもしない癖に、そんなやつ肩だいちやって。

陽輔、アークをローザから離し、ヴァレンシアにローザを捕えさせる。

陽輔　でかしたぞ、ヴァレンシア。これでペンダントと娘はもらったぞ。

亮　待て！

陽輔　もう会うことはないだろう。じゃあな。

アークを残して去る一同。陽輔、春奈、早紀。

陽輔　どうしたんですか、春奈さん。急に抱きつくとか言ったりして。

早紀　完全に素だったわね。

春奈　ごめんなさい。最近、亮の態度が冷たくて。演技だってわかってるのに、すごくイラついちゃって。

陽輔　え？　亮さんとそういう仲なんですか？

春奈　あ……はい。ずっと亮を信じてたんですけど、やっぱり、亮は浮気してるんじゃないかって。早紀ちゃん、ごめんなさい。さっきはもう、浮気相手が早紀さんじゃないかって、勝手に思っちゃって。そんなわけないのに。

早紀　まあまあ。すぎたことを悔やんでも仕方ないわ。でも、この後は役者としての仕事を全うしないとね。
春奈　そうだよね。

光達。　木島は修理のため音響ブースへ。

和木　舞台でまた一悶着あったみたいだけど。

光　　ラスターが死んだことに比べれば、些細な問題です。

戸澤　ラスターを蘇らせないとね。

大悟　しっかりと死んじゃったからな。生き返らせるには魔法みたいなことしかできないよな……。

和木　でも、魔法を使うとリアリティにかけるか。難しい問題だね。……あつ！　魔法がダメなら科学はどうだい？　この劇の舞台は未来だろ？　科学が発展してもおかしくはないよ。

光　　でも、戦争のせいで荒廃している世界ですよ。

和木　そこは考えようだよ。例えば、秘密の施設が地下に眠っていたとかさ。

戸澤　魔法で生き返るよりかは大分ましですね。

光　　じゃあ、その方向で考えてみますか。

和木　それに使うならピッタリのあるんだ、私の楽屋まで行こう。

光　　それじゃあ、和木さん。後お願いします。僕は木島君を手伝ってくるので。

楽屋へ移動する3人。木島のもとへ行く光。亮と早紀

早紀　ねえ、春奈さんとまだ付き合ってるの？

亮　　え？　昔の話だよ。

早紀　嘘。春奈さんは付き合ってるって言ってたよ。

亮　　この舞台が終わったら、正式に別れるつもりだったんだ。

早紀　じゃあ、私は浮気相手ってことになるんだ。

亮　　仕方ないだろ。公演中に別れたら、あいつ、この舞台に身入らなくなるよ。

早紀　最悪。世間からしたら、私奪ったことになるんだ。

亮 世間の眼なんか関係ないじゃない。大事なのは気持だろ。
早紀 関係あるわよ。はぁ……。 (去る)
亮 おい、早紀。

早紀と入れ替わりに前田がやってくる。

前田 亮。いい加減にしろよな。

亮 なにが？

前田 わかってんだろ？ 舞台をめちやくちやにしてるのはお前だ。

亮 ああ。ちよつとスパイスを加えただけじゃん。

前田 ちよつとじゃないだろ。おかげで舞台裏はてんやわんやだよ。

亮 いいじゃない。お客さんには受けてるんだし。

前田 勘弁してくれよ。頭下げるのは俺なんだからさ。それに、好き勝手する奴だつてまわりに思われたら仕事来なくなるんだぞ。

亮 悪いけど、後でいいかな。今それどころじゃないんだよね。

春奈がやってくる。

春奈 吉野さん。今いいですか。

亮 ごめん。次のシーンの準備したいんで。

春奈 お時間とらせないんで。

亮 じゃあ、楽屋までいいですか？

去る二人。ぶつぶついいながら戻っていく前田。ガラハド皇帝とバルバロス

陽輔 皇帝。何事も無事進んでおります。

和木 そうか。ヌハハハハハ。ついにあの最強の戦士が我が物になるか。

木島と光。

木島 あ、何とか直ったみたいです。

光 良かった。

木島 口でなんか二度とやりたくありませんからね。本当に良かったですよ。

戸澤やってくる。

戸澤 いい感じになってますよ。

光 何何？ どういう感じになったの？

戸澤 ガラハド帝国にある秘密の研究施設で、死んですぐの状態のラスターの細胞を活性化させて蘇らせるんです。さらに、洗脳をして自分たちの配下にしようとガラハド皇帝は考えたってわけです。

陽輔 しかし、上手くいきますでしょうか？ まだ、あの装置を完全に信頼すること

ができません。

和木 愚か者が！

手を突き出す和木。吹っ飛ぶ陽輔。

光 ん？ 魔法？

和木 お前が信じなくてどうするのだ。貴様も私の配下なら、私のすることを信用したらどうだ。次、同じようなことを言ったら、また私のフォースの力を味わうこととなるぞ。

光 ……。おい。これだめでしょ。

戸澤 だめですか？ つじつまは合っていると思いますけどね。

光 そう言うことじゃないよ。

和木 もうそろそろ、奴が目覚めるころか。

ラスターが歩いて来る。

和木 ラスターよ。貴様の主の名を答えよ。

大悟 ガラハド皇帝様です。

和木 ヌハハハハハ。見ろ、バルバロス。成功だ。ついにやったぞ。これでレジスタンスなど、怖くないわ。ヌハハハハ。

ラスター、突然ガラハド皇帝に襲いかかる。

和木 何をする。

大悟 下手な小細工はやめだ。貴様たちが俺を欲しがっているのはわかっていたのでな。わざと死んでみたら、案の定自分たちの本拠地まで運んでくれた。

陽輔 何！？ 貴様、我々の拠点を抑えるために、わざと死んだのか？

大悟 ああ、そのとおりさ。もう少し芝居していても良かったんだが、あまりに気持ちが悪くてな。

和木 ええい。こしやくな。バルバロス。片付ける。殺しても構わん。
陽輔 ガラハド皇帝の仰せのままに。

和木、退場。陽輔、武器をとる。

陽輔 貴様を倒してやるわ。この新型兵器、ライトセーバーでな。

光 ライトセーバーって思いつき言っちゃってますけど？

戸澤 ダメですか？

光 だって、これ、スターウォーズのパクリだろ？ フォースとか言ってたし。
戸澤 そんなところですかね。

大悟 ふっ。ライトセーバーを持っているが貴様だけだと思うてか？

陽輔 何？ まさか、貴様もジェダイだというのか？

大悟 見よ。我がライトセーバー。

ダースモール式のライトセーバーが出てくる。

光 赤いライトセーバーって、敵の色じゃん！ だめじゃん！ ラスター悪者にな
つてるよ。

戸澤 あちゃあ。

光 明らかにエピソード1のダースモール意識してるよね？

大悟 シュコーシュコー

光 あいつ、シュコーシュコーとか言ってるぞ！ 明らかにダースベージャーじゃ
ん！ ダース違いだよ。めちやくちゃだ。待てよ。もしかしてこのまま本当に
戦うのか？ ライトセーバーの音なんかないぞ！

木島 いえ、あります。

光 え？ なんで？

大悟と陽輔、そのままエピソード1のダースモールVSオビワンを完全再現。

戸澤 すごい。ダースモールVSオビワンを再現しているぞ。

光 二人ともお星さまウォーズ好きだからね。……待てよ。完全に再現しているってことは……。

ラスター、バルバロスに斬られる。

光 やっぱり！

戻ってくるガラハド皇帝。

和木 どうだ、バルバロス。ラスターを始末したか？

陽輔 そ、それが……。

和木 そうか、逃がしたか。

陽輔 いえ、その、倒しました。

和木 え？ また？ 貴様！（フォースを使う）また嘘をつきおったな！ 貴様がラスターに勝てるはずないのだ。次いい加減なこと言ったらもう、許さないよ！

陽輔 しかし、実際に……。

和木 まずね、キャラ的にお前みたいな獣のようやつはね、ああいう凜とした奴には勝てないの。お約束なの。

陽輔 ガラハド皇帝は、私がラスターに勝つのが嫌なのですか？

和木 そんなことはないけども。はやく、ラスターを追え！ フォース浴びせるぞ！

陽輔 はっ！（去る）

和木 奴の邪魔さえなければ、後は小娘とアルバトロスで……。

和木も去る。光達と合流する。前田も合流。

和木 いやあ、何とかうまくいったね。

光 行ってませんよ。むしろ課題が残りましたよ。ライトセーバーなんてどっから持ってきたんですか？

和木 私が作ったんだよ。

光 え？ これ和木さんが作ったんですか？

和木 スターウォーズが好きでね。いつも持ち歩いてるんだ。

戸澤 それはそれで気持ち悪いですね。

陽輔 木島さん、音最高でしたよ。

前田 よく、スターウォーズの音ありましたね。

木島 和木さんから渡されたんです。

戸澤 マニアですね。

大悟 和木さん、これもらっていいですか？
和木 うーん、どうしようかなあ。
光 その話は後にしてください。次の作戦です。

亮と春奈。

春奈 もしかして、もう私に飽きた？
亮 別に、そういうんじゃないよ。
春奈 じゃ、何で最近会ってくれないの？
亮 だから、俺も仕事があつたんだって。
春奈 2週間前も？
亮 ああ。モデルの仕事がね。
春奈 じゃあ、これはどういうこと？

携帯電話を取り出す。

春奈 このメール。仕事があるからって会ってくれなかった日だね？
亮 人の携帯見るのは反則だろ。
春奈 悪いなとは思ってるよ。でも教えてよ。私には仕事があるって言って、メールでは違う女の子に会おうって言ってる。やっぱ、この娘のほうが好きなんだ。
亮 そういうんじゃないって。
春奈 じゃなきゃなんなの？一通だけじゃないんだよ。他にもたくさんメールしてるし、電話だつてしてる。女の子にこんなに連絡とるって、それ以外にないじゃん。
亮 いや、その。
春奈 ずるいよ。嫌いになったならさ、はつきりそう言えばいいじゃん。仕事があるからとか、そんなの盾にして。信じちゃうじゃん。亮は忙しいから会ってくれないんだって。きつと、暇ができれば今までみたいに二人で過ごせるって。それをさ……。 (思い出を語る) ごめん。うざったいよね。ごめんね。

春奈、去る。早紀登場。

亮 おい、春奈！
早紀 もしかして、ばれちゃった？
亮 ちよつとごめん。

亮、去る。

早紀　もうそろそろ潮時かな。

光達。

光　スターウォーズのおかげで、とりあえずラスターが瀕死の状態ではありますが生きていることになりました。ここからなんとかエンディングにつなげていきましょう。

一方、春奈は舞台上に飛び出しいつてしまっている。その後を追う亮。

大悟　あれ？　あれ春奈だよな？　ヴァレンシアのシーンじゃないはずだけど。
陽輔　あ、亮ですね。アークとヴァレンシアのシーンなんかないはずですけど。

亮　待てよ。

春奈　もういいの。放っておいて。
亮　いいから止まれって。

春奈　彼女のことを好きなんですよ？

亮　こっち向けって。

春奈　これ以上傷つきたくないの。

亮　聞けよ！　ごめん！　確かにお前の言う通りだよ。俺浮気してた。メールも電話もしてた。お前には会えないって言うておいて、他の娘と会ってた。これは事実だ。変えようがない。でもさ、今日までを色々と過ごしてきてわかったんだ。俺が本当に好きなのは、お前なんだって。

春奈　嘘だよそんなの。

亮　そう思っちゃうよな。無理ねえよ。虫のいい話だよな。最低なことしてたのにさ。でも、これだけ。これだけ聞いてくれ。過去に俺を支えてくれた娘は何人かいた。けどさ、本当にしっかりと支えてくれたのは、お前だけなんだ。それがすごい心地いことで、俺もお前を支えたいって心の底から思ってる。本当だ。だから、俺ともう一度やり直してくれ！

大悟　わわわ。何これ！

陽輔　舞台上で痴話喧嘩。

戸澤　お客さんからすると、敵の幹部とアークが実は付き合ってたってことになりま
すね。

光 あああああ、どうすんの？ もう修正できないよ。

早紀 やってくる。

早紀 あちゃあ。とんでもないことになってますね。陽輔さん、和木さん、フオロー
お願いしますよ。

陽輔 え？ ということ？

春奈 その言葉信じていいの？

亮 今度こそ絶対に裏切らない。俺は、世界でいちばんお前が好きだ。

春奈、亮の台詞の途中で入ってくる。

早紀 おーっほっほっほ！

亮 あ、いいところぞ！

早紀 これはどういうことかしら？ ヴァレンシア。まさか裏切り？

春奈 え？ え？ あ！ ここって舞台上？

亮 しまった気がつかなかった。

早紀 質問に答えなさいよ。まあいいわ。

亮 ローザその口調は一体。

早紀 （ガラハド帝国の紋章を亮にわざと見せつける）

亮 それは……ガラハド帝国の紋章。まさか。

早紀 そう、私は元々ガラハド帝国の人間。あなたに近づいたのは、レジスタンスの裏側を知るため。すぐに追い出されちゃったけどね。でもアジトは掴めた。もうそろそろ、ガラハド帝国はレジスタンスを攻め滅ぼすわ。

光 う、うまい！

戸澤 この後、本来ならどうなるんですか？

光 本来は、ガラハド帝国に乗り込み、ローザを救ったアークが敵に囲まれるんです。そこでペンダントの秘密が明かされます。

陽輔 （登場しながら。）良くやったローザ。残念だったなアーク。ガラハド皇帝、作戦通りでございます。

春奈 作戦？

和木 我がガラハド帝国に仇なす奴がいると聞いてな。それが内部の人間だというのだから、放っておくことはできない。そこでおびき出そうという作戦を立て

てた。ヴァレンシア、まさかお前が裏切っているとは。悲しいぞ。さあ、ペンダントをこちらに投げてからわれわれに逆らったことを悔いながら死ぬといい。

春奈 ……。

和木 どうした。ペンダントをよこせ。

早紀 さつさとよこしなさい。裏切り者。

春奈 ……。

和木 ええい、よこさぬか！

陽輔 あ、皇帝。ペンダントはローザが持ってますね。

早紀 あ、そうだった。そうだった。私もってた。

和木 そう、こいつが持っているんだ。冥途の土産に教えてやろう。このペンダントがなんなのか。このペンダントこそ、アルバトロス！

春奈 アルバトロス！

陽輔 そう。最強の破壊兵器、アルバトロス！

亮 あれはただの言い伝えじゃなかったのか！

早紀 そうよ。ペンダントの封印を解くと、アルバトロスの曲が流れてくる。それを巫女である私が歌うことによって効力を発揮する。ガラハド皇帝。これを。アルバトロスの力でレジスタンスを壊滅させてやる！

和木 そうはさせないわ！ はっ！

春奈

春奈、和木に向かって手を突き出す。和木、何のことかわからず困惑する。

春奈 でえりやあ！

和木 う、うわー！

陽輔 そうか、あいつもフォースを使えたんだった。

早紀 ペンダントを！

和木が落としたペンダントを拾おうとするガラハド帝国サイド。亮、そのペンダントを奪う。

亮 ペンダント、いや、アルバトロスは渡さないぜ！

春奈 逃げましょう。アーク！

逃げる二人。

早紀 何をしている！ 追え！

和木 待て。もうよい。ペンダントなど無くてもレジスタンスはねじ伏せられる。アルバトロスはその後だ。ガラハド帝国は、レジスタンスに総攻撃をかける！

皆はける。光達。

前田 おー、話繋がってますね。

戸澤 野崎さんすごいなあ。フォローの達人じゃないですか。

大悟 あのパカッブルを叱るのは後だな。

光 そういうことです。

前田 この後はどうなるんですか？

光 ガラハド帝国がレジスタンスに攻撃を仕掛けるということは、物語のクライマックスに突入したほうがいいでしょう。ガラハド帝国とレジスタンスの最終戦争を、巫女であるローザの歌で止めるんです。

大悟 よし、上手く繋がるじゃないか！

木島 ついに感動のラストですか！

前田 アークのキャラクターが変わったり、ラスターが死んだり、ローザが実は敵だったりと、色々ありましたが、なんとかなりそうですね。

光 そうだ……ローザ敵になってるんだ……。

大悟 誰が歌うの？

5人 ああああああああ！

木島 誰が歌うんですか？

大悟 巫女は敵だしな。

光 弱ったな、歌わないとアルバトロスってなんだったの？ ってなりますし。

亮と春奈以外集合。

和木 どうしたの？ 結構うまくいってると思うんだけど。

陽輔 新たなトラブルですか？

大悟 重大な問題が起きたよ。

前田 戦争を止める歌を歌う人がいないんです。

早紀 あ、そうか。私が寝返っちゃってるから。

陽輔 なにやってんのよう！

早紀 しょうがないでしょ！ 舞台上であんなのやりだしたんだから。

和木 この後はどうするんだい？

光 ルートは違いますが、戦争の流れができました。クライマックスまで持っていきませう。ですが、肝心の巫女がいません。野崎さん、どうにかして歌ってください。

さい。

早紀 え？ 無理でしょ。私敵だよ？

光 歌を練習しているのは野崎さんしかないんですよ。綺麗に歌える人も。

前田 確かに、どうにかして野崎さんに歌ってもらいたくないですね。

戸澤 あとは、バカッフルにもこのことを伝えなきゃね。あれ？ 二人は？

陽輔 舞台上にまだいます。

大悟 まさか、いちやついてないよな？

亮、春奈。

亮 あれはガラハドの軍隊。あつちはレジスタンスのアジトが。奴ら総攻撃をかけ

るつもりだ。どうしよう。えっと、ヴァレンシア。

春奈 すぐに向かうわよ。私が止める。

亮 ヲアレンシアがフオースを使えたって無理さ。あんなに大勢いるのに。

春奈 フオースなんかで止めたりしないわ。私が歌で止める。

裏の人達 え？

春奈 ヲアレンシアは仮の姿。本当の私は、マーキュリー。レジスタンスの真のリーダーにして、大巫女よ。

裏の人達 えええ！！！？

前田 ヲアレンシアが大巫女ってことになっちゃいましたよ。

早紀 つてことは何？ 私は、お母さんに負けたってこと？

大悟 そうなるな。

戸澤 吉野亮って、熟女好きだったんだ。

前田 違います。アークですよ。亮に変なイメージつけるのやめてください。

和木 熟女キラー吉野亮。

前田 ちよっと、和木さん！

和木 だって、そうじゃない。現にハートを射止めてるし。

陽輔 別所さん、歌えるんですかね？

光 野崎さんが歌っている所を何度も聞いていますから、歌は覚えていてしょうけど。上手いかどうかは……。

木島 でも、歌に自信がないなら、自分からあんなこと言いださないんじゃないですか？

前田 そうですね。役者さんって、ボイストレーニングしてるじゃないですか？ 下

光
手くそな人はいないんじゃないですか？
ここは彼女を信じましょう。

春奈
アーク。行くわよ。

春奈、亮、はける。

光
さあ、皆さんが行かないと戦争を表現できません。お願いしますよ！

ガラハド帝国VSレジスタンス。激しい立ち廻り。ガラハド帝国優勢。

和木
ふははははは。ぬるい、ぬるすぎるぞレジスタンス。ラスターがいなければそんなものか。

飛び込んでくる亮と春奈。

亮
剣を収めろ、ガラハド皇帝。
あなた達も攻撃を止めなさい。

レジス
リーダー。何言ってるんだ。もうアジトもばれちゃった。ここで決着をつけるしかないんだよ。

和木
お前より部下のほうが物分かりがいいようだな。ヴァレンシア。死にたくなければそこをどけ。お前も一時的ではあったが、私の部下だ。それを手にかけるのは心苦しい。

春奈
いえ、どかないわ。私がこの戦いを止める。私の歌で。
歌だと？

春奈
私の真の名はマーキュリー。

陽輔
マーキュリー？ まさか貴様、大巫女か？

春奈
自然を平気で破壊するあなた達を止めるため、私はレジスタンスを立ち上げた。あなた達を止めることが、自然を守ることだと信じて剣をとった。でもそれは違った。互いに捨てなければならぬ。それでもできないなら、強制的にさせるしかないわ。このアルバトロスを使って。

和木
なに？ 貴様、我々を滅ぼす気か？

春奈
あなたは何か勘違いしているようね。アルバトロスは兵器なんかじゃない。最大級の癒しの歌よ。

陽輔
癒しの歌だと？

春奈
アルバトロス。それはアホウドリを意味する言葉。翼を広げた時の存在感と、

長時間空を飛ぶことから、長い航海を意味する象徴としても扱われた。アルバトロスはアホウドリが遠くの天空まで支配するように、気持ちを和らげる癒しの歌のことよ。

前田 なんか、やたら存在感を放ってますね。

光 これから歌うんです。存在感がなくては困りますよ。

大悟 ねえ、俺はいつ出ればいいの？

光 先輩ですか？ ……今のところ出ないほうがお話スムーズに進みますね。

前田 この際もう出なくていいんじゃないんですか？

大悟 良くない！

前田 何度も出てきて死ぬ人なんて、お客さんからしても意味が分からないでしょ。

大悟 やだ。出たい出たい出たい出たい！

前田 わがまま言わないの。

早紀 大丈夫よ。奴の歌に力はないわ。私が力を引き継いでいるのだから。

春奈 娘にはまだ負けないわ。大丈夫だと思えば指をくわえて見ているといいわ。

和木 どちらでもよい。危険なものは殺すだけだ。

立ち廻り。春奈、歌い出す。あまりに汚い歌声。一瞬戦争は止まるが、歌が終わると争いだす。

戸澤 戦争止まらず！

光 なんで？

前田 いや、確かに今のは止まりにくいですよ。

大悟 あんな下手くそな歌で戦争止まるの納得いかないしね。

戸澤 渡辺さんもそう思ってるんでしょ？

光 いや、そんな。

前田 今ですよ、桐山さん。

大悟 え？

前田 出番です、出番。

戸澤 確かに、この状況を打破できるのはラスターぐらいなものです。

大悟 ……わかった。うまくラストまでもっていけばいいんだよね。

前田 そうです。この状況を上手く持っていけるのは、ラスターしかいませんからね。

大悟 これが、最後のチャンスだな。

大悟、舞台へと向かっていく。

光 大丈夫でしょうか？

前田 何言ってるんですか？ 桐山大悟ですよ？ 確かに最近はあまり見なくなりましたが、一線で活躍した役者なんです。これくらい。

大悟 争いをやめろ！

陽輔 ラスター！

和木 やはり生きていたか。

早紀 しぶといやつね。

陽輔 残念だったな。もう争いは止まらない。

和木 大巫女の歌も通用しなかった今、貴様らが生きる術はない。

早紀 レジスタンスは我が帝国にひれ伏すの！

大悟 そうはさせない。このラスターがいる限り。

和木 威勢がいいのは構わないが、どうする気だ？ また下手くそな歌でも歌うか？

陽輔 確かにそうすれば、一瞬止まるな。

早紀 大巫女の歌は絶大だものね。

大悟 そうではない。俺達が始めた争いは、俺達で終止符を打つ。貴様を倒してな。

和木 大将が崩れれば、貴様らもただの有象無象にすぎない。

陽輔 悪くない考えだ。できればな。

陽輔 できるはずがない。俺が皇帝を守るからな。

立ち廻り。陽輔と大悟の会話。

大悟 バルバロス。なぜ貴様ほどの力量を持つものがガラハドに味方する？

陽輔 決まっている。この世からくだらない戦争を無くすためだ。父さんや母さんが死んだ、あの時のような思いをすることがないように。

大悟 ガラハド帝国がこの世を支配することが、戦争を無くすことにつながると本気で思っているのか？

陽輔 ああ、この世が帝国のみになれば、戦争は起きない。

大悟 そのために多くの血が流れているんだ。

陽輔 大きな目的のためには多少の犠牲はつきものだ。

大悟 強制的に一つになるのではなく、互いに手を取り合っていくべきだと、なぜわからない？ お前の両親が亡くなった後のことを思い出してみろ。身寄りの無くなったお前を助けてくれたのは、親族だけではなかったはずだ。

陽輔 ……黙れ！ それができれば最初からしている！ それができないからお前たちも大巫女の下手くそな歌で止めようとしたんだ！

戸澤 いい感じじゃないですか？

光 確かに、ほぼ台本通りに、バルバロスを説得している。アドリブは苦手だったのに。

前田 昔の話でしょ。さすが桐山さんだ。

亮に刃を向ける早紀。

早紀 ラスターはバルバロスに手惑い、大巫女は下手くそな歌しか歌えない。頼みの綱はすべて断ち切られたわね。

亮 ちつ。ラスターめ。やはり俺が出なきゃだめか。大巫女が下手くそだったのは、久しぶりに歌ったからだ。次は下手くそなんかじゃない！

春奈 あーーーーーーもうーーーーーー！

春奈、亮から剣を奪い、ブンブン振りまわし歩く。

春奈 さつきから下手くそ下手くそってさー！ なんなのよ！ 少しは音外したかもしれないけどさ、私だって一生懸命やったのよ。それをみんなして！

大悟 俺は下手くそって言ってないよ。

春奈、大悟を滅多斬り。絶命する大悟。

亮 ラスター！！！！

3人 あああああああ！！！！

光 やっぱ駄目だあいつ！

戸澤 あれは仕方ないと思いますけど。

光 あんな滅多斬りされる奴がどこにいるんですか？ 対処のしようはいくらでもあるでしょ！ なんておとなしく斬られてるんだ！。

亮 ラスター。今度こそ、君の遺志をしっかりと受け継ぎ、ガラハド帝国を倒すよ！

戸澤 吉野さん、また取り返しをつかないことを……。

光 もう、どうにでもして。

前田 本当にすいません！

和木　バルバロス、ローザ。これから例の作戦に移る。(ヴァレンシアからペンダントを奪って)

亮　例の作戦？

和木　ペンダントに込められたエネルギーを利用し、貴様らのアジトを爆発させるのだ。巫女の歌がなくても、アルバトロスに匹敵するものができる。止めて見せるアーク。いや、ラスター！

亮　待て！

和木、はけていく。ガラハド帝国去っていく。レジスタンスもそれを追うようにしてはけていく。和木と大悟。

和木　桐ちゃん、強引だけど台本72ページに繋げよう。皇帝がアルバトロスを利用

しようとしたところに、ラスターが飛び込んでくるシーンだ。

大悟　ラスターはまた死んじやってますけど。

和木　大丈夫さ。瀕死ってことにすれば、お客さんも分からないよ。いろんな事が起きたからね。強引だけどね。

大悟　いや、和木さん。

和木　じゃあ、頼んだよ。スタンバイしておくからね。

和木はけていく。和木以外の人達、集まってくる。

光　あ、いた先輩。もう反応しなければいいのに、今度は斬られちゃって。

前田　まあまあ。桐山さん、途中までのフォローすごく良かったですよ。

早紀　この後はどうする？　結果的にラスター死んでるけど。

和木　ふははははは。後はこのペンダントをここにセットして、スイッチをプッシュすればいいだけだ。レジスタンスのやつらに思い知らせてやる。私に逆らうことがどういうことになるかを。

光　それをこれから考えましょう。幸い、クライマックスへ向かっている流れは断ち切られていないので、出方だけ不自然じゃなければスムーズにいくと思うんです。だから桐山先輩には……。

大悟　もーいいよ。

光　え？

大悟　もういいって言ったんだよ。もういい。ラスターはこのまま死のう。

光　なんで？

大悟　　なんでって、おかしいだろ？　ラスターがこう何度も死んでちゃさ。ゾンビじやん。アークがとめに行ったほうが自然じゃないか。

和木　　しかし、この私の行く手を常に阻んできたのがラスターだ。きっとやつは来る。その前に何としても発動させてやる。

前田　　でも、アークは皇帝を止めるだけの力を持っていないじゃないですか。

大悟　　持ってるよ。今のアークは十分な力を持ってる。ラスターの力を継承してんだから。

木島　　桐山さん。

大悟　　もう、めちやくちやだよ。勝手にキャラクター変えるし、一般人は紛れ込むし、舞台の上でプライベートな喧嘩。こんなの劇じゃねえよ。とにかく、今の状態だったらアークがやってもラスターがやっても変わらないんだから、アークがやればいいだろ。

和木　　はっはっは。押しちゃうぞ。押しちゃうぞ。ニヤニヤが止まらん。急に現れたりするなようラスター。何やってんの桐ちゃん。

陽輔　　先輩、変なこと言わないでくださいよ。主役はラスターなんですから。先輩がいないと成り立たないじゃないですか。

大悟　　そんなことないだろ。お客さんだって、そのイケメン俳優が主役はってた方が嬉しいだろ。

陽輔　　どうしたんですか、先輩。らしくないですよ。

大悟　　うるせえな。お前も馬鹿にしてんだろ？　そりやそうだよな。俺が一線で活躍したのなんてほんの一瞬で、お前はもう俺を超える人気俳優だもんな。久しぶりの主役だったんだよ。俺が本当に必要とされて依頼された仕事だったんだ。なのに、全部めちやくちやだよ。もう、どーでもいいよ。

陽輔　　本気で言ってるんですか？

大悟　　ああ、本気だよ。

陽輔　　ふざけんな！　なんなんだよそれ。俺が憧れた桐山大悟はどこ行ったんだよ！
光　　陽輔。

和木　　ふはははは。すぐに発動してやろうかと思ったけど、余裕だから、ちよつと一発芸でもしちやおうかなあ。早く来てよ！

陽輔　　俺が先輩を馬鹿にしてる？　見下してる？　そんなはずないじゃないですか！

俺はあんたに憧れて、役者になったんだ。大学に入ってから光と仲良くなつて、光の付き添いで全く興味のない演劇部の公演を見に行つた。その時、初めて先輩を見たんです。カッコ良かった。題材は新撰組。攘夷志士をバサバサ斬っていくその姿。実際に斬っているわけじゃない。血だつて一滴も出てない。なのに、本当に人を斬っているように見えた。自分が戦っているわけじゃないのに、まるでその戦地に自分がいるかのように息苦しかった。先輩みたいになりたいって思つたから入部したんです。

大悟
初耳だよ。

陽輔
先輩、覚えてますか？ 俺が初めて演劇部の舞台に立つた時、緊張の余り、脚本10ページくらいすつ飛ばしちゃつて。裏で慌ててる俺に言ってくれたんだ。お前は役者なんだから堂々としろ。間違つても諦めたりするなよ。一度舞台に立つたら、幕が閉じるまでお客さんを楽しませるのが役者の仕事だつて。でも、お話はちぐはぐになっちゃつて、カバーできないって言つたら、先輩は笑つて言つたんだ。お前のミスくらい俺が埋めてやる。俺を誰だと思つてんだ。桐山大悟だぜつて。うわつ、かつこいいじゃないですか。そうですか？ なんか臭くないですか？ しつ。

前田
戸澤
早紀
和木
おい。もう間が持たないよ。助けてー。よし、アンコールだ。

戸澤
和木さんが大変そうだ。こうしちゃいられない。(はける)

陽輔
確かに今は、前に比べたら仕事は減ってきているかもしれませんが。でも、せめて先輩が教えてくれたことは、忘れないでくださいよ。先輩が手本を見せ続けてくださいよ。

大悟
……あーカッコ悪い。後輩からマジ説教だよ。つか、お前何俺に説教なんかしてんだよ。

陽輔
すいません。

大悟
さてと。

光
どこ行くんですか？

大悟
決まってるんだろ。仕事しに行くんだよ。まだまだひよつこの後輩にお手本見せなきゃいけないからよ。

早紀
大丈夫？ また投げ出したりしない？

大悟
俺を誰だと思つてんだ？ 桐山大悟だぜ。

大悟、
舞台へ。

前田　これでひと段落ですかね。桐山大悟が本気出すんですから、もう安心でしょう。一時はどうなるかと思いましたがどね。

木島　私も、ラストー登場の音楽を鳴らしに行きますか。（はける）

光　陽輔、ありがとな。

陽輔　俺、何であんなこと言ったんだろう。先輩に向かって。後で殺されるよ。

光　お前の出番もあるからな、忘れるなよ。

前田　次はどういうシーンなんですか？

光　ラストーがガラハド皇帝に一人で立ち向かいます。

大悟登場。

大悟　そこまでだ！！

和木　ラストー（最高に嬉しそうに）！　やはり来たか。どうしても私の邪魔をするのだな。邪魔さえしなければ、この世界に平和が訪れるというのに。それこそ、お前が望んでいたものだ。違うか？

大悟　貴様に支配されることがか？　そんなものは平和ではない。

和木　世界を一つにするには、そうする他ないのだラストー。

大悟　世界は一つでなくていい。大切なのは互いに手を取り合うことだ。

和木　その通りだ。だが、国が違えば、支えあうために手を出すことすらできないのだ。私はそれをずっと見てきた。

大悟　そんなことはない。勝手な考えだ。

和木　悪魔で私に剣を向けるか。お前の母親はどう思うだろうな。実の父親に牙をむく息子の姿を見て。

大悟　黙れ！　親子の縁は切ったはずだ。
和木　悲しい。悲しいぞラストー。我が手で息子を殺さなければならないのだからな。

二人の激しい攻防。ラストーピンチ。

光　陽輔、行ってこい。

陽輔　ああ。

前田　このピンチにバルバロスが登場ですか？　ラストー勝てないじゃないですか。
光　バルバロスは皇帝に味方するんじゃないやありません。ラストーに味方するんです。
前田　ラストーの説得が胸に響いたバルバロスは、帝国のやり方の間違いに気がつくんです。

前田　ライバルが仲間！　くうううう熱い！

和木 とどめだ。ラスター！

和木を止めに入る人影。それは戸澤さん。

和木 何？ 貴様は……誰だ、貴様！

戸澤 私はラスターの兄、そう、ガスター10だ！

前田 胃薬登場！

光 胸やけにスーッと良く効きます！

早紀 ガスター10は使用上の注意をよく読み、用法・用量を守って正しくお使い下さい！

光 何でだ！ 何で上手くいったのに、あの人がああああ！！！！

大悟 に、兄さん。今までどこに行っていたんだい？

戸澤 俺は皇帝のフォースの力によって、バルバロスとして生かされていた。しかし、奴のフォースの力が弱まり、呪縛から解放されたというわけだ！

前田 一応バルバロスが助けに来てる！

光 何という偶然の一致。

陽輔、戻ってくる。

陽輔 もういい。もう俺出ない。

光 なんでなんで。さつき先輩に最後までやれって言っただけなのに。

陽輔 だって、俺のいいところだよ？ それを、良くわかんない奴が、勝手にもってっちゃったんだ！ もういいよ。バルバロスは胃薬ですよ。

光 そうだ。吉野さん。お願いします。この危機を救ってください。

亮 は？ だって俺の出番じゃないし。無理でしょ、あんなの。

光 この状況で不自然なく飛びこめるのはアークだけです。どうにかして、ガスター10をどかして来てください。

前田 なんでもわざわざ怪我しに行かなきゃいけないの？

亮 亮、行けよ。さんざん迷惑かけたんだ。最後までいいピシッと仕事しろ。一つの

前田 作品は、みんなの力でできてるんだ。自分が勝手した分は自分で補え。

亮 嫌だね。俺の利益にならない。

前田 亮！

亮

俺のマイナスイメージになったら今後にかかわるじゃないか。俺は顔がいいってだけで仕事が来た役者だ。イケメンなんてゴロゴロいるし、あともう少しすれば年齢の関係で俺は使われなくなる。その時まで、インパクトがある役者としてイメージをつけられなかったらお終いなんだよ。

陽輔

はっ。大してイケメンでもない癖に、イケメンイケメンってよく言えるな。

亮

なにい！

光

二人ともやめてください。二人はなんで役者を目指したんですか？ 思い出してください、この道に踏み入れようとした時の気持ちを。あらゆる作品の中で人を楽しませる、涙を流させる、感動させる。そんな役者になりたいからではありませんでしたか？ 今舞台で頑張ってる桐山先輩も、和木さんも、野崎さん、別所さん、音響の木島君、それにマネージャーの前田さんだって、お客さんに楽しいひと時を与えるために動いているんです。戸澤さんは何だかわかりませんけど。お願いします。気持ちを一からやりなおして、役者としての仕事をしてください！

亮

忘れてたかもしれない。目指し始めたころの気持ち。そうか、客を楽しませようなんて、最近考えてなかった。

陽輔

ガスター10なんか、どけちまえばいいんだよな。どうにかがんばるよ。

光

お願いします。

早紀

私たちも行きますか。お客さんを感動させに。

役者達はけていく。

戸澤

このガスター10が来たからには、もう大丈夫。ラスター。一緒に皇帝を倒すぞ！

大悟

お、おう！

陽輔、入ってくる。

陽輔

騙されるなラスター。そいつは俺ではない。

大悟

バルバロス！

戸澤

え？ あ、えっと、ふっふっふ。ラスターを騙して後ろから攻撃してやるつもりだったが、ばれてしまったては仕方ない。ここでラスターには死んでもらう。

亮、入ってきて戸澤を斬り、和木からペンダントを奪う。

亮

後は頼んだぜ。主役の皆さん！（はける）

和木　バルバロス、貴様も私を裏切るのか。
陽輔　自分が正しいと思う者に味方する。それだけだ。
和木　かつての同胞も自らの手にかけなければならないのか。今日は誠に悲しい日だ。

立ち廻り。所変わって戦場にいる皆さん。

亮　ヴァレンシア、ローザ。聞いてくれ。今こそアルバトロスを解放しよう！

春奈　アルバトロスは私では解放できなかった。

亮　あれはヴァレンシアだけで歌ったからさ。世界を埋めつくすこの歌は、二人で歌うものだったんだ。つまり、レジスタンスとガラハド帝国の人間が手を取り合って歌って初めて意味のあるものだったんだよ。

早紀　私が歌う理由がない。放っておけば、ガラハド帝国が勝利するのだから。

亮　あるさ。これ以上人が血を流すのは見たくない。そうだろ？　君を見ていれば

春奈　わかる。命が一つ消えるたびに悲しい顔になる君の顔を見れば。

早紀　これ以上血を流さないためにも、やりましょう。ローザ。

母さん……。わかった。

二人歌いだす。徐々に戦争が止まっていく、希望なら、なぜか役者陣全員歌っていて欲しい。

亮　やった！　成功だ！　二人とも成功だ！！

木島　稽古中に聞いていたものより綺麗だ。

光　うん、とつてもいいよ。

戸澤　本当ですねえ。

和木　おのれえええ。あのひよっこめ、何もできないと思っていたが、

大悟　皇帝、俺たちも決着をつけるぞ。

和木　ああ、すぐにな。

立ち廻り。戦いの最中、バルバロスはやられる。最終的にラスターの剣が皇帝をつらぬく。

和木　くそお。ただでは死なん。ただでは死なんぞ。

和木、遠くから春奈を殺す。そして息絶える。

光 お疲れ様でした！ なんやかんや色々りましたが、無事終わることができました。打ち上げ行きましょう。

関係者はみな口々に喋りながら、はけていく。

光 はあ。本当疲れたな。

戸澤 お疲れ様。

光 ああ、お疲れ様でした。

戸澤 いいものができたね。

光 自分が作った話とは全く違うものでしたけどね。

戸澤 確かに話はぐちゃぐちゃになっていたけど、役者やスタッフの諦めない姿勢。何より、みんなが舞台の成功を願っていた。それが感じ取れるものだった。いいよ。劇団サイコロ。

光 はあ。そんなものでしょうかね？

戸澤 今度、お願いしてもいいかな？

光 何をですか？

戸澤 今度、プロデュース公演をすることになってね。どこかい劇団はないか探してたんだ。劇団サイコロなら、いいと思ってね。

光 あなた一体……。

戸澤 戸澤広大。○×プロダクションの社長やってます。

光 ええええ！！？ あの大手プロダクションの！？

戸澤 はい、社長です。どう？ 受けてみる？

光 え、ええ。ぜひお願いします。でも、社長さんが何でこんなところに？

戸澤 さつき言ったことは本当だよ。いい劇団がないかどうか、この演劇祭にきてみたら、急にトイレに行きたくなって、僕が戻る前に始まっちゃったんだ。ごめんね。今度は水こぼさないようにするよ。

光 お願いします。

戸澤 今回の作品は良かった。まさにタイトル通りだった。

光 タイトル通り。アホウドリってことですか？ 確かにアホらしいことになっていましたからね。

戸澤 そうじゃないよ。もう一つの意味のほう。

光 もう一つの意味？

戸澤 知らないの？ ゴルフで使われるんだよ。アルバトロスって言う言葉が。基準の打数より一打少ないとバーディ、2打少ないとイーグルって言うだろ？

光 はい。

